



2027年3月期第2四半期（中間期）決算説明会資料

株式会社トーメンデバイス

2026年10月28日





2027年3月期中間期 決算概況



2027年3月期業績見通し



Appendix（会社概要）



売上高 : 7,858億円

前年同期比

+223.3%

進捗率

+56.1%

(対通期予想)



純利益 : 251億円

前年同期比

+425.5%

進捗率

+83.7%

(対通期予想)

■ **売上高**：メモリの価格上昇継続による増加

- ・ 汎用メモリを中心に価格上昇が継続

■ **利益**：収益性の向上

- ・ 当社想定を上回るメモリ価格の上昇によるもの
- ・ ただし、2Qは1Q比較で利益率低下 → 価格上昇幅の縮小のため

■ **総資産**：商品（在庫）の増加

- ・ メモリ価格上昇による仕入価格の上昇および物量確保の必要性（1Q末比約1,100億円増）

■ **借入金**：資金需要の拡大

- ・ 仕入価格の上昇による必要資金額の拡大

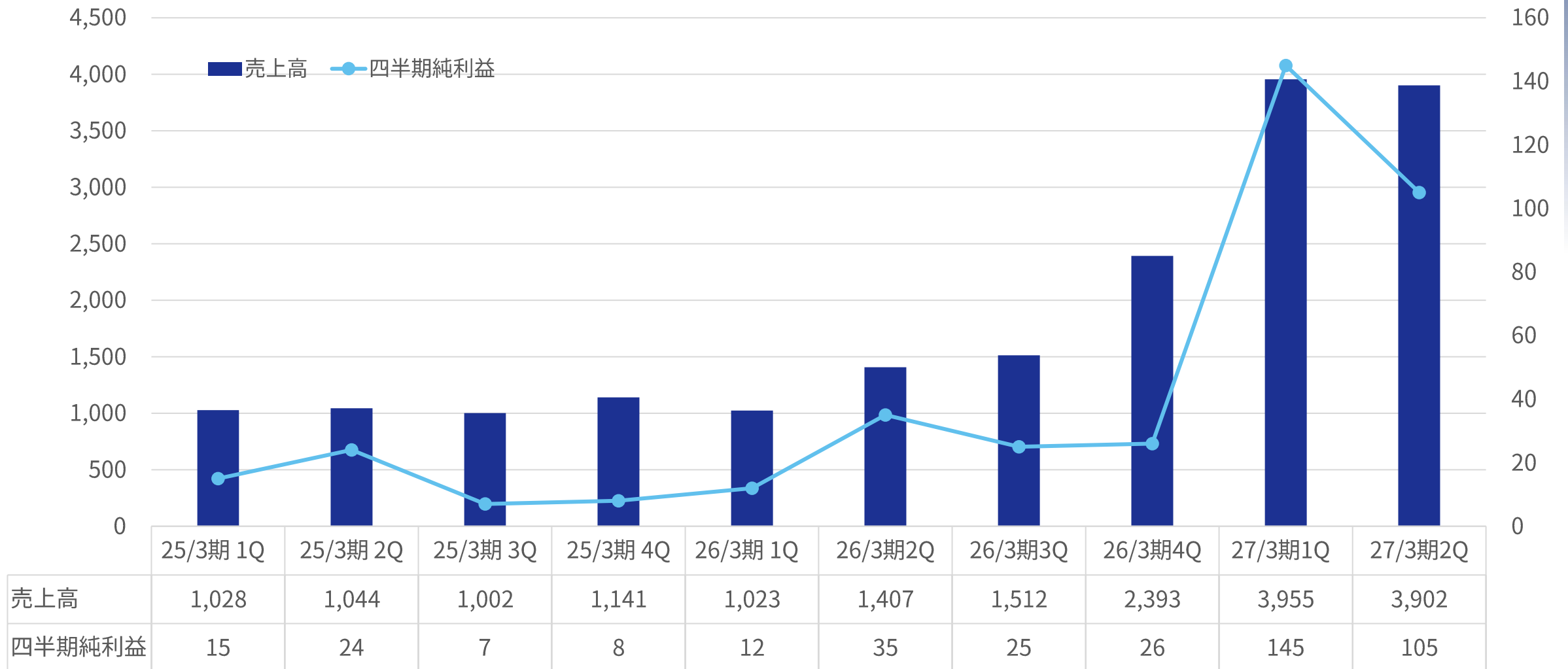
(億円)	2026年3月期 中間期 実績	2027年3月期 中間期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	2,430	7,858	5,428	+223.3%
営業利益	81	375	294	+359.6%
経常利益	69	345	276	+393.6%
親会社に帰属する 中間純利益	47	251	204	+425.5%
1株当たり純利益（円）	702.77	3,692.80	2,990.03	+425.5%
(億円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 中間期 実績	前年度末比	
			増減額	増減率
総資産	3,449	5,727	2,278	+66.0%
純資産	592	804	212	+35.7%
1株当たり純資産（円）	8,710.38	11,827.66	3,117.28	+35.8%
自己資本比率	17.2%	14.0%	▲3.2 pt	-

※ 億円未満切り捨て

直近3年 四半期毎の売上高・四半期純利益 推移

(単位：億円)

(単位：億円)

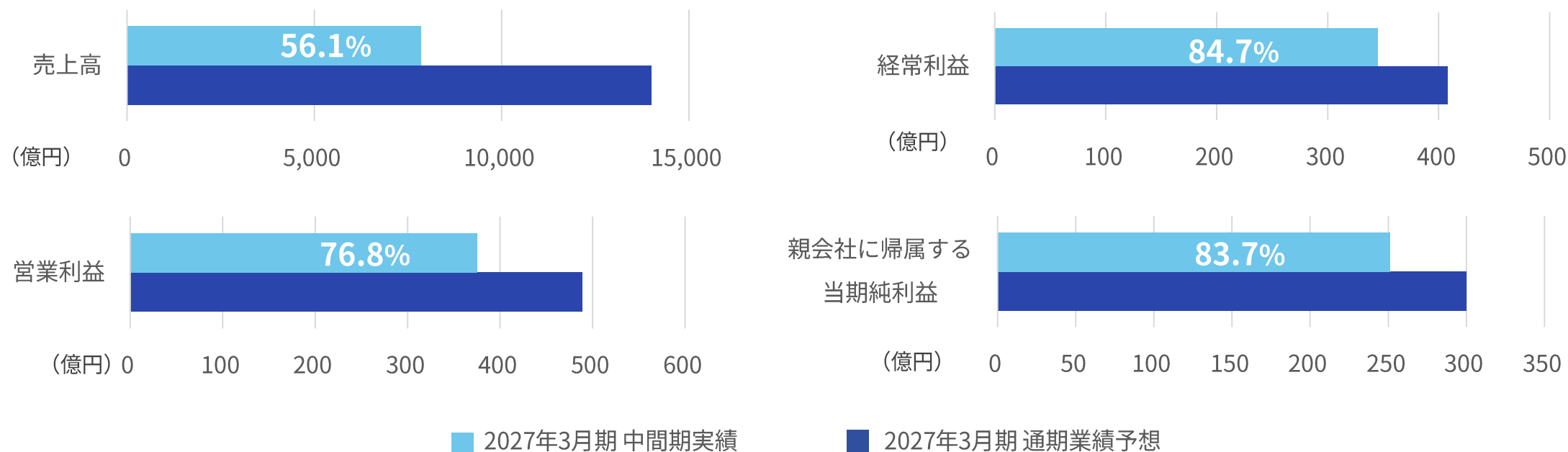


【売上】

- メモリの供給逼迫が継続する中、懸念していた物量確保が厳しいながらも一定数行えた
- メモリ価格の更なる上昇もあり、売上高の進捗は堅調

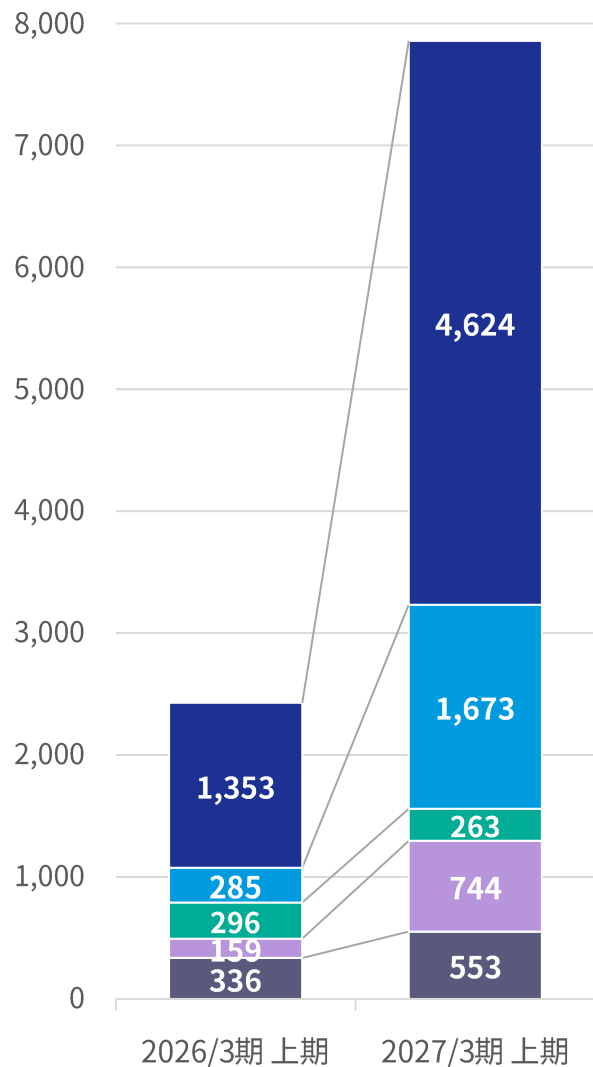
【利益】

- 上期を通してメモリ価格の上昇は継続し、想定よりも高い利益率で進捗
- 利益率においては第1四半期から第2四半期で低下したものの、平年よりも高い水準を維持
(1Q→2Q利益率低下：価格上昇幅の縮小のため)



2027年3月期中間期 用途別売上高増減要因

(単位：億円)



※メモリ価格の上昇が売上の押し上げ要因

情報機器

+241.7%

- 国内/海外ともにサーバー・ストレージ向けメモリ売上が増加
- 情報機器売上の8割超がサーバー・ストレージ向け

車載

+485.8%

- 国内/海外ともにメモリ売上が増加
- 物量確保により、売上高全体に占める割合も20%超まで伸長

移動体通信

▲11.2%

- 海外スマートフォン向けCIS売上の減少
→ メモリ価格上昇による影響で、スマートフォン自体の出荷台数が減少

デジタル家電

+367.6%

- 海外でのTV用SoC向けメモリの売上増加（顧客需要の増加）

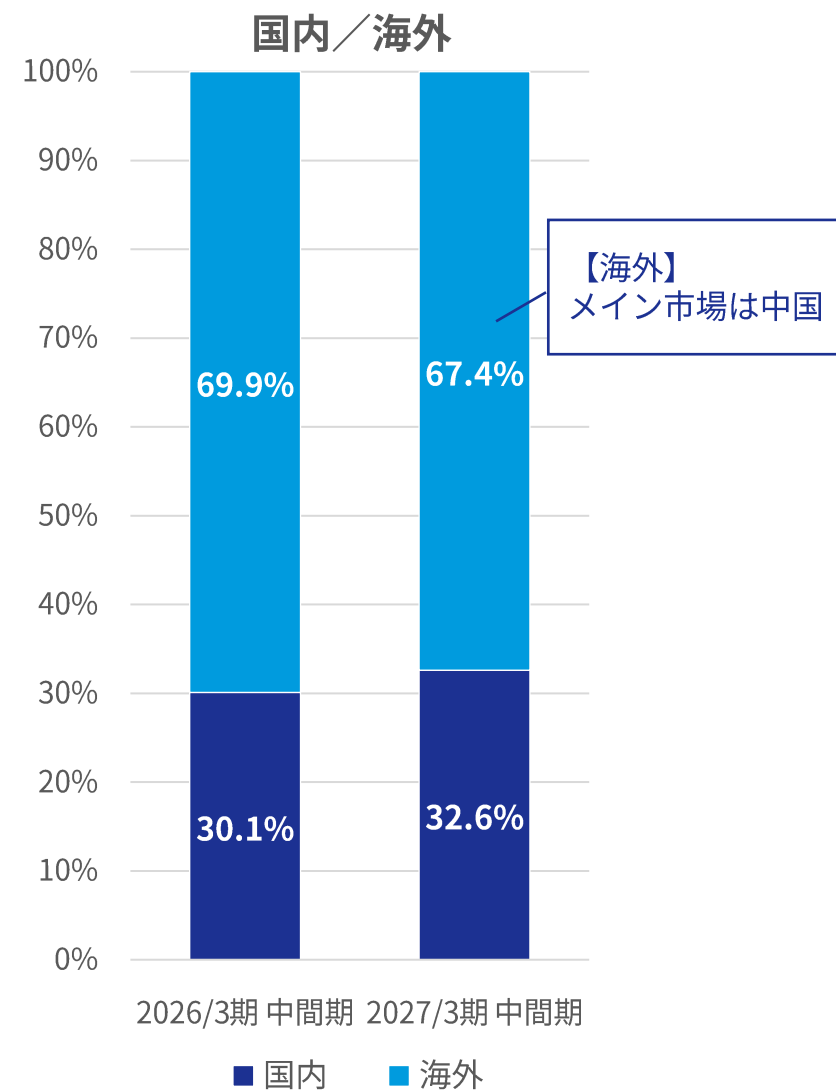
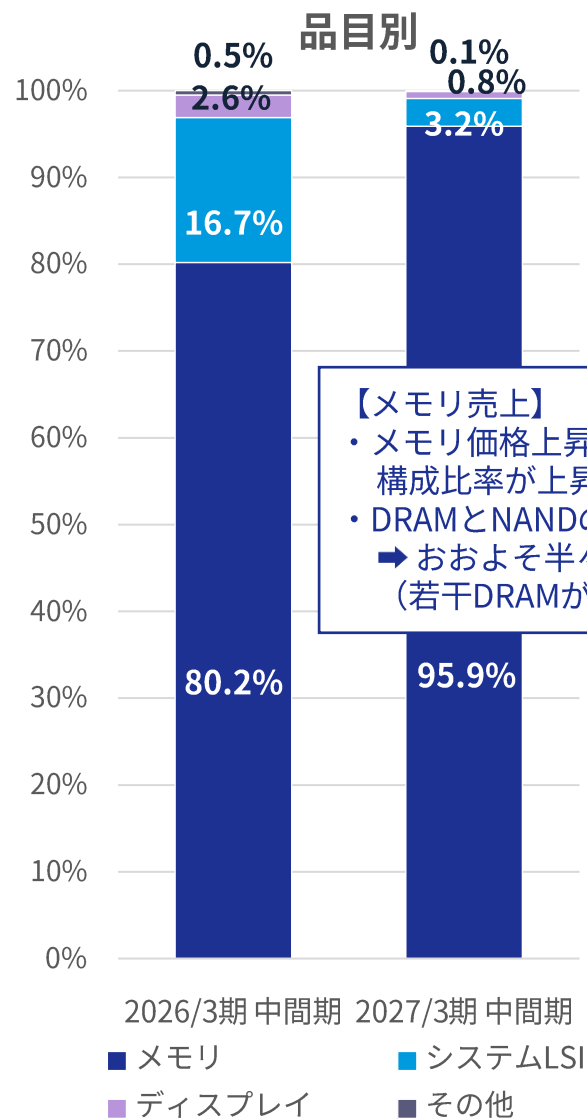
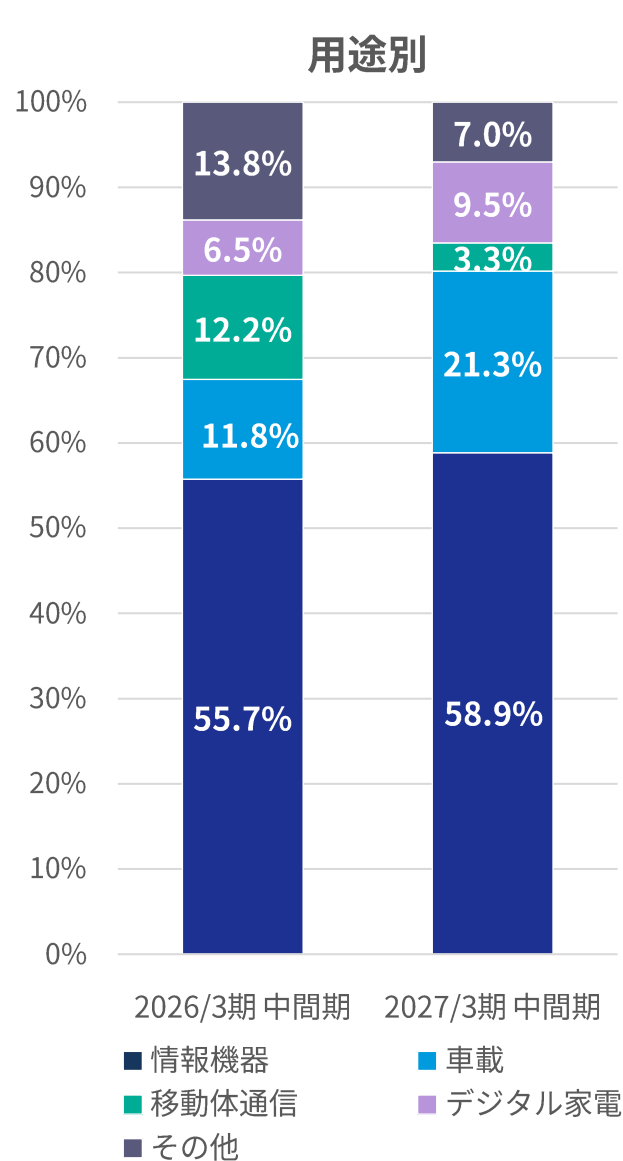
その他

+64.3%

- 国内/海外ともその他各用途でのメモリ売上増加
- 国内SiPビジネスの増加

■ 情報機器：PC、サーバー・ストレージ等 ■ 車載 ■ 移動体通信：スマートフォン等
 ■ デジタル家電：TV（周辺機器含む）、デジタルカメラ等 ■ その他：MFP、産業機器等

（ご参考）2027年3月期中間期 売上構成比



【全体】

■ メモリの安定調達と供給充足率の向上

- ・ 汎用メモリを中心に供給の逼迫が継続する中、物量確保と安定供給に注力し、一定数の物量を確保
- ・ EOL（生産中止）品の代替提案・代替品供給、同時に先端品への移行促進
- ・ コンシューマー製品向けレガシー品、およびサーバー・ストレージ向け販売で利益を確保

【車載】

■ 売上高に占める構成比20%を超えるまでに成長

- ・ 国内/海外ともに、無事に物量確保ができ、お客様への安定供給を実現したことで売上拡大
- ・ 年間必要物量の供給枠を概ね確保

■ 中国市場におけるCar OEM（自動車メーカー）とのビジネス推進

Car OEMとの直接取引において売上を堅実に伸ばしていくための関係強化

【AIソリューション】

- Rebellions社のAI推論向けアクセラレータを搭載した4Uサーバーを国内に設置し、トウモロコー・ネット社との協業により、高効率なAI推論基盤の実証（PoC）環境を提供開始
- Mobilint社のエッジ推論向けNPUの顧客提案および検証機評価を開始



2027年3月期中間期 決算概況



2027年3月期業績見通し



Appendix（会社概要）

2027年3月期 通期業績予想

- 下期も生成AI関連製品が牽引し、メモリ需要は継続する見込み
- ただし先行きの不透明感は強い
 - ・ 価格上昇を見込んだ先行購入によるお客様での在庫の積み増し可能性
 - ・ 価格上昇による買い控えの懸念
- メモリ価格：予測が非常に困難な状況。当社としては下期にかけて小幅上昇の後に高止まりの予想。

(億円)	2027年3月期		(参考)	
	期初予想 (2026/4/24発表)	修正予想 (2026/7/30発表)	前年実績	増減額
売上高	7,500	14,000	6,336	7,664
営業利益	182	489	187	302
経常利益	145	408	133	275
親会社に帰属する 当期純利益	110	300	100	200
1株当たり純利益 (円)	1,617.43	4,411.22	1,472.71	2,938.51
配当金 (円)	600	1,640	540	1,100

【全体】

- 物量確保
 - ・ 2027年も供給逼迫は継続見込み
数量枠の確保・安定供給に向けて各取引先とのコミュニケーション/交渉

【サーバー・ストレージ】

- 国内：ソブリン AIデータセンター向けメモリ拡販強化
- ESS（蓄電システム）向けバッテリーの販売促進

【車載】

- 2027年の年間供給枠確保に取り組む
- MLCCやOLEDなどメモリ以外の製品の拡販 → メモリへの依存リスク低減と収益率の安定性を目指す

【AIソリューション】

- Rebellions社 AI推論向けアクセラレータ：
新規顧客開拓および新製品のプロモーションスタート
- Mobilint社 エッジ推論向けNPU：
顧客・パートナーとの協業をさらに強化。採用事例の創出と市場拡大を目指す。

【グローバル展開】

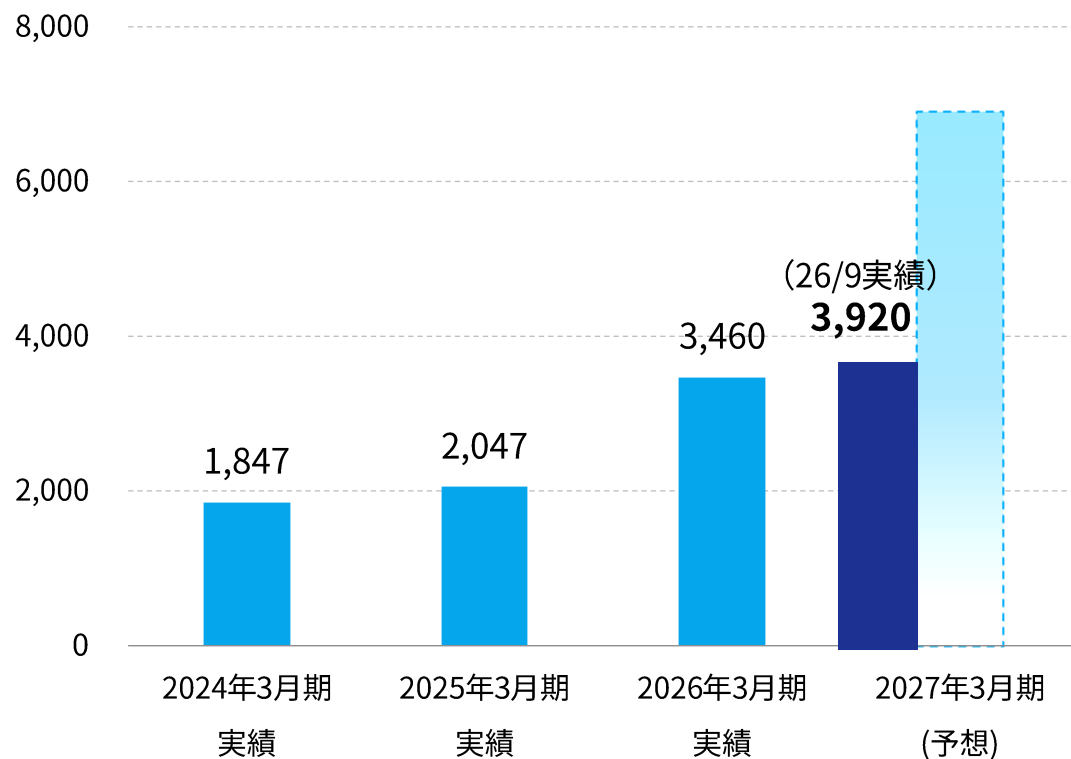
- 北米：オペレーションの確立、顧客サポートの本格化

2027年3月期における売上の大幅増加は、メモリ価格上昇の要因が大きいが、これまでの取り組みにより着実に成長。

サーバー・ストレージ

(前年同期比 +233.0%)

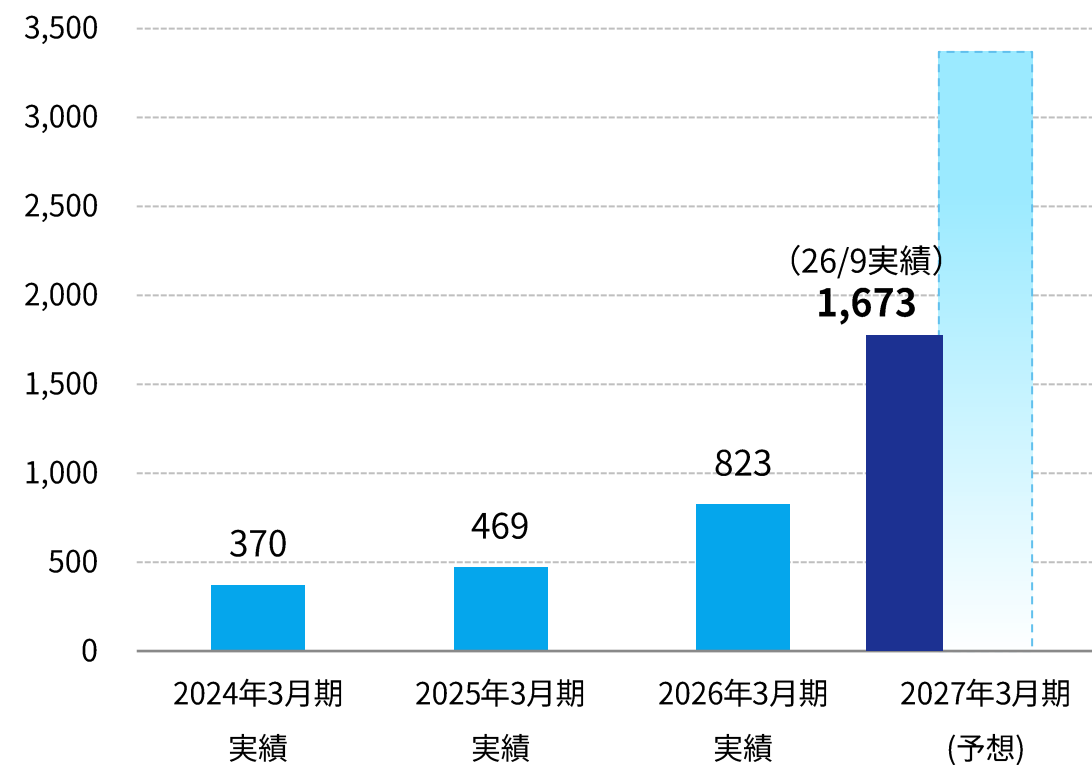
(単位：億円)



車載

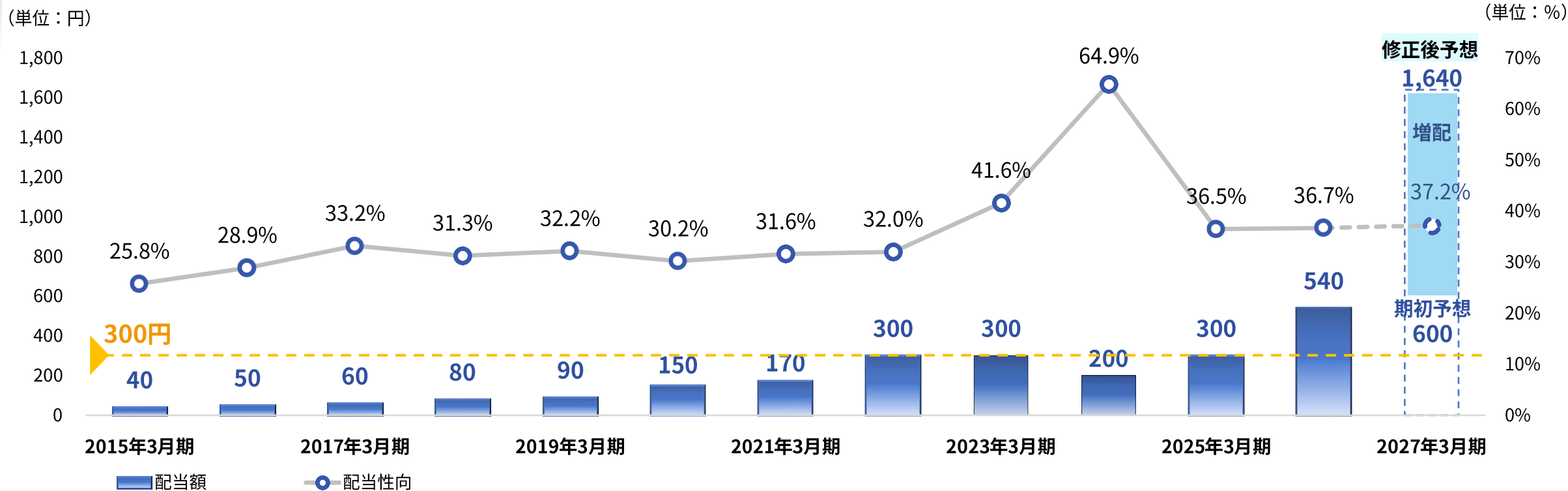
(前年同期比 +485.8%)

(単位：億円)



配当方針

- 各事業年度の連結業績に応じた利益還元を行うため、業績連動型の配当とする。
- 株主の皆様への還元を強化する観点から、中期経営計画2028期間において1株当たり300円を配当下限とし、中期経営計画最終年度（2029年3月期）に「配当性向40%」を目指す。





2027年3月期中間期 決算概況



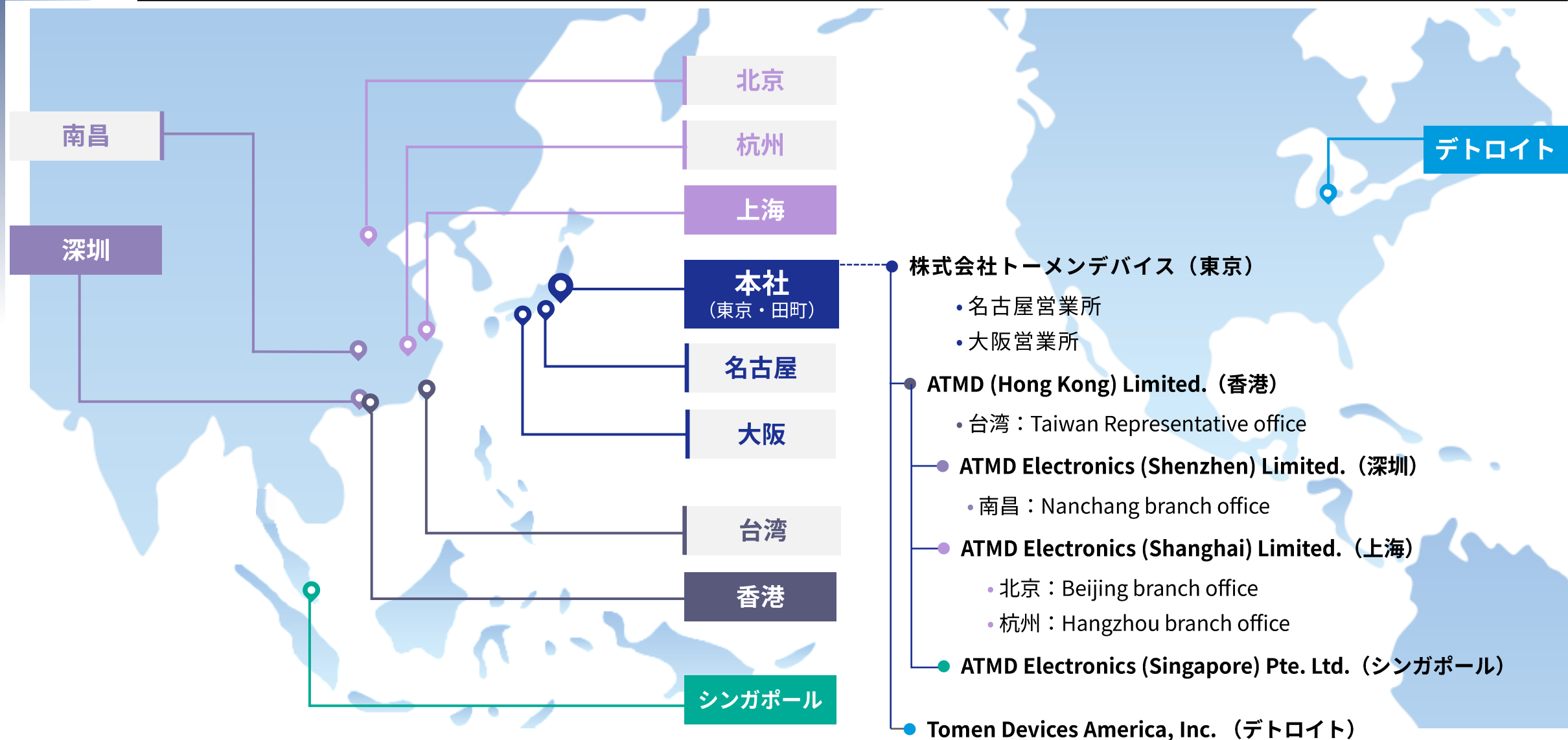
2027年3月期業績見通し



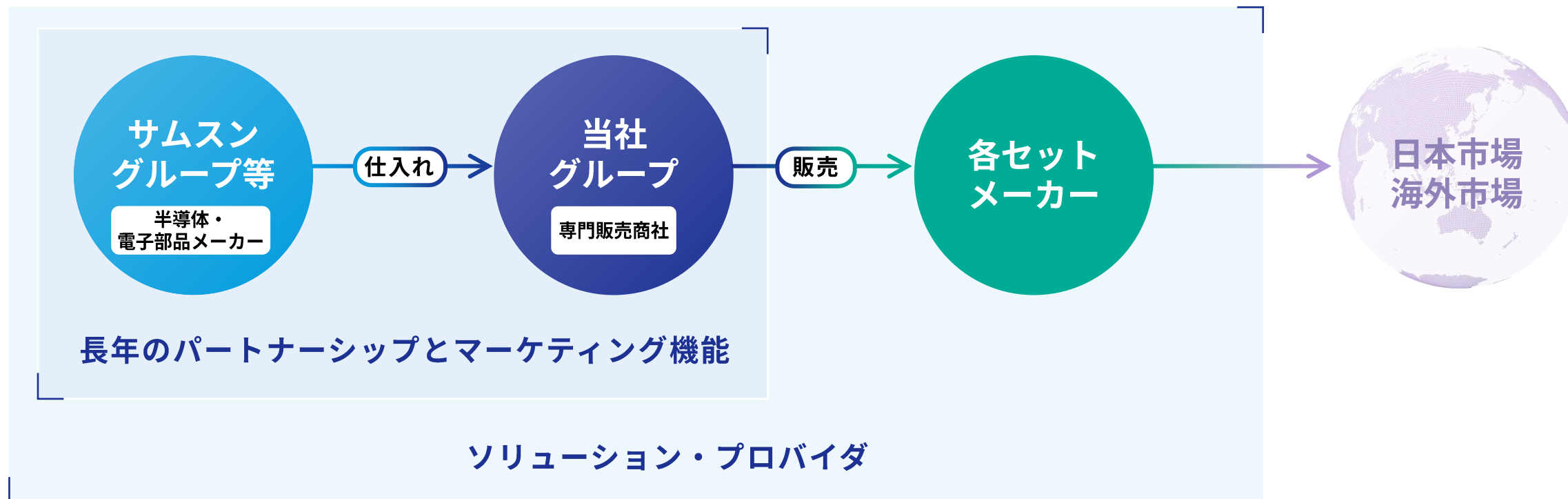
Appendix（会社概要）

FUTURE × GLOBAL

会社名	株式会社トームンデバイス（TOMEN DEVICES CORPORATION）
設 立	1992年3月19日（平成4年）
所在地	東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 25 階
代表者名	代表取締役社長 中尾 清隆
資本金	20億5,400万円
従業員数	201名（連結） 2026年9月30日現在
ホームページ	https://www.tomendevices.co.jp/
事業内容	半導体や電子部品の販売
上場市場	東京証券取引所プライム市場（証券コード：2737）



トーメンデバイスグループは世界のサムスングループの半導体製品、
電子部品を主に販売するエレクトロニクス商社です。



最先端かつ低消費電力の半導体・電子部品の供給を通じて、
低炭素社会の実現に努めます。

Key Strength 1.

日本国内における
サムスングループ唯一の代理店

2018年10月、丸文セミコン株式会社が営む、日本サムスン株式会社の販売特約店事業を譲り受けたことにより、国内唯一の代理店となった

Key Strength 2.

サムスンの最先端の半導体・電子部品を、
お客様の新製品開発段階から提案可能

仕入先とお客様の間に立って、製品の設計、開発、試作にいたる一貫したサービス機能を提供する「ソリューション・プロバイダ」としての役割を強化

Key Strength 3.

1人当たりの売上高・経常利益は、
半導体商社の中でトップクラスを確保

2026年3月期実績（連結）

・ 1人当たり売上高	3,136百万円
・ 1人当たり経常利益	65百万円

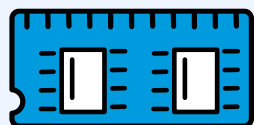
Key Strength 4.

安定した財務基盤

豊田通商グループとしての安定した財務基盤
シリコンサイクルの中での需給バランスの変化に柔軟に対応することが可能

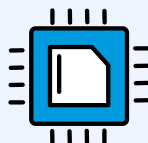
当社グループは、サムスングループ製半導体及び電子部品をパソコン、デジタル家電、携帯電話や情報・通信機器などのメーカーに販売する技術系販売商社です。

半導体メモリ



- DRAM
- MCP
- NAND
- SSD

システムLSI



- CMOSイメージセンサー
- SoC
- SiP
- PMIC

ディスプレイ



- 有機EL

その他



- バッテリー（サムスンSDI）
- MLCC（サムスン電機）
- AIアクセラレータ

用途例



情報機器

- サーバー・ストレージ
- PC



車載



移動体通信

- スマートフォン
- 携帯電話



デジタル家電

- TV
- デジタルカメラ



その他

- MFP

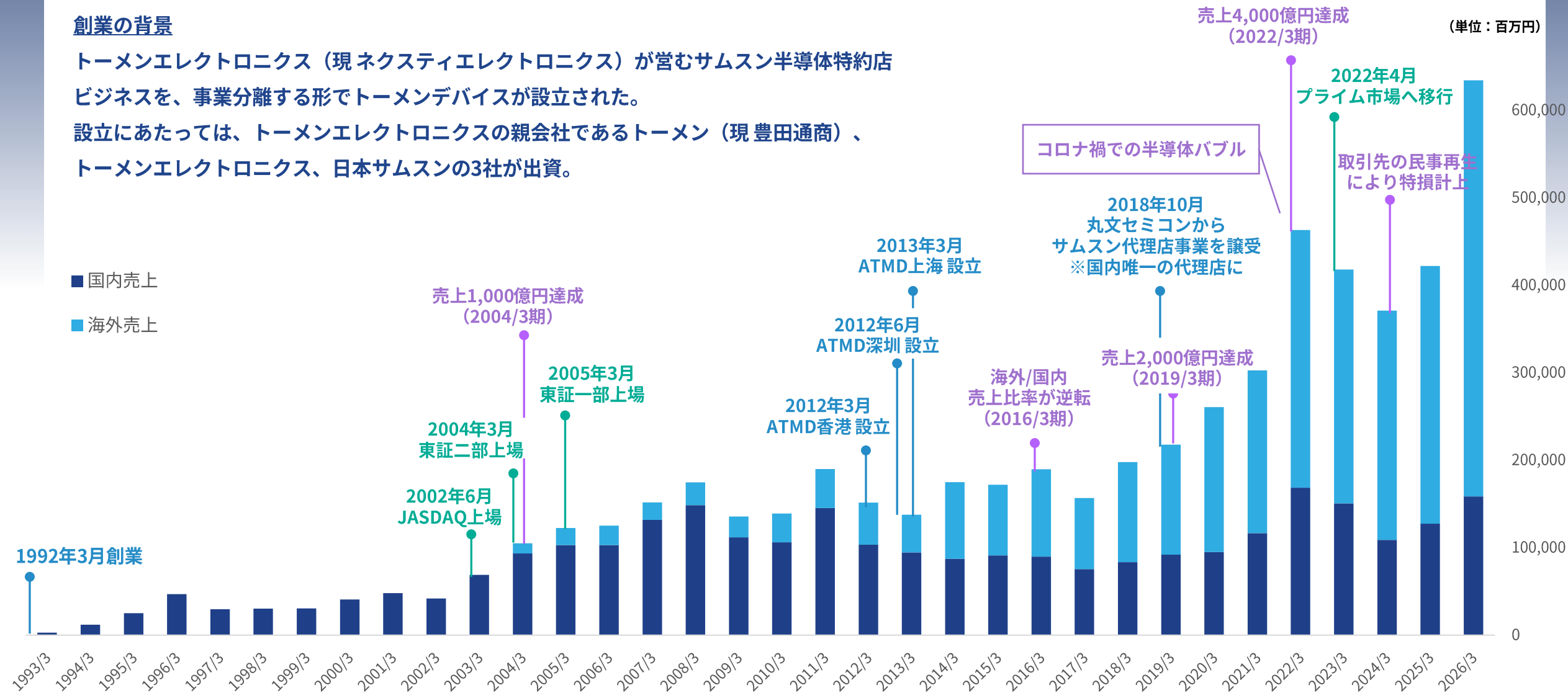
創業の背景

トーメンエレクトロニクス（現 ネクスティエレクトロニクス）が営むサムスン半導体特約店ビジネスを、事業分離する形でトーメンデバイスが設立された。

設立にあたっては、トーメンエレクトロニクスの親会社であるトーメン（現 豊田通商）、トーメンエレクトロニクス、日本サムスンの3社が出資。

■ 国内売上

■ 海外売上





(将来に関する記述等についてのご注意)

- 本資料で開示されているデータや将来予測、計画等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によって、大きく変化する可能性があります。これらの目標や予測の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。
- また、本資料は、投資勧誘等を目的として作成したものではなく、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。
- 投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。